



STOP! 介護崩壊 介護ウェブ2010 推進ニュース

— 介護ウェブの “Big Wave” をおこそう! —

方針「今後の介護ウェブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう!

介護職員の「誇りとやりがい」をテーマに文集を作成!

形式にはこだわらず、川柳・短歌・作文など様々な作品が集まりました(滋賀)



介護委員会で、介護職員の誇りとやりがいをテーマに文集を作りました。全体で61名から作品が寄せられ、素敵なものがありました。形式にはこだわらず、川柳・短歌・作文など様々な作品が集まりました。普段顔も見た事のない、他ブロックの職員の介護に対する想いが読み取れたり、介護の仕事を始めたきっかけが読み取れたりできてとても楽しい詩文集になりました。配布した範囲で、どの作品が1番印象に残ったかの投票もしてもらいました。作品NO.7番が11票 6番と33番が9票 1番が8票 38番が7票という結果でした。交流会には15名が参加。介護の仕事を始めるきっかけをカミングアウト!したりと、楽しいひと時を過ごせました。滋賀民医連介護職員の想いがあふれた文集です。思わず涙したりあったかい気持ちになりました。(滋賀民医連週報 No. 165 2010.12.2より)

1番投票の多かったN0.7作文要約

ある利用者との関わりのなかで、生きる目標について考え、最期の数ヶ月を前向きに過ごす事ができた経験のまとめ。脳出血の後遺症で片麻痺と高次脳機能障害を負うが、車の運転をしたいと言う目標を掲げ、リハビリに取り組む。障害の内容から判断すれば、達成できる可能性は低いですが、できるかどうかではなく、やろうとする気持ちに寄り添うことで利用者のモチベーションを高め、結果として希望に溢れた生活を送る事が出来た。脳出血の再発で、呆気ない最期を迎えることになったが、介護とはその人らしさを追求することだという確信を得た。どのように人生の終末期を迎えるか、ということは、最期の時間をどう生きるかということだ。人生のリミットを視野に入れた介護の関わりかた、専門性について、問題提起する作文。

介護職員の「誇りとやりがい」をまとめる事例集づくりが各地でひろがっています!

2008年10月に、埼玉で取り組まれた「介護職 誇りとやりがい事例集」づくりに学び、2009年6月には、山形で「誇りとやりがい事例集」がまとめられ、現在も全国各地で「事例集づくり」がひろがっています。社会福祉法人やすらぎ福祉会(石川)では、実行委員会を立ち上げ、2010年10月に文集「支えあう心～やすらぎ生活援助日記～」が完成しました。酒井専務によると、今回は、初めての取り組みということもあって、全日本民医連が提起した「介護・福祉の理念(案)」を意識せずに、まずは、各職場・職員に介護・福祉に対する想い等をまとめたものにしたということです。さらに、「印刷にもお金をかけずに自前でプリントアウトして配布しました」と、取り組みの紹介がありました。次回は、「介護・福祉の理念(案)」にもとづいた事例集づくりを検討しているとのこと。社会福祉法人協立いつくしみの会(北海道)では、法人主催「第1回かりふ学会—日々の実践を語り合い、明日の活力にしよう—」を12月12日に開催し、多くの演題発表で、介護・福祉の実践が交流されました。全国各地の取り組みに学び、各県連・法人でも「介護・福祉の理念(案)」を深める取り組みを具体化しよう!

支えあう心

～やすらぎ生活援助日記～



12月5日(日) 上伊那(南箕輪村 大芝荘)にて学習会を開催!(長野)



信濃毎日新聞社論説委員の畑谷史代氏を迎え、信毎で連載された認知症介護「笑顔のままで」に関わって、なぜ認知症を隠さないといけなかったのか、実名報道の意義や、連載に至るまでの福祉現場の取材での思いなどをお聞きしました。畑谷氏は、介護保険制度の改定にも意見を述べられ、健康は権利であることや、在宅での生活援助は生活の質を保つための命綱。在宅サービスの限度額の撤廃や、公費負担の引き上げも要望されました。

会場からも発言が相次ぎ、家庭で介護している現状や、家庭で何人も介護している職員の苦勞、地域包括支援センター職員からは行政への要求など出され、畑谷さんと対話がはずみ、介護の改善へのみんなの熱意がみなぎりました。地域からの参加者も多く、研修センターがいっぱいになり、上伊那医療生協の介護ウェブ推進委員のみなさんは企画から運営に力を発揮した充実感と、運動の次のステップへの思いを確認しました。

(長野県民医連 豊かな介護にNo.4 2010.12.7より)

地域の介護事業者から続々と署名が届いています! 10月末から地域の約30の介護事業者に介護改善署名のお願いに訪問(長野)

介護ウェブを地域全体に広げようと、10月末にケアマネジャーを中心に、地域の約30の介護事業者を訪問し介護改善署名のお願いをしたところ、多くの事業所で署名を取り組んでいたようです。すでに、紙風船さんから45筆、アルピコさんから50筆、下諏訪社協さんから15筆、介護センター花岡さんから25筆、労協ながのさんから40筆が届いています。また、高野接骨院さんでは、院長の奥さんが毎日外来に出て利用者さんに署名をお願いしていただいているとのこと。今までにない大きなご協力をいただき、ありがたく思います。これは、介護保険の改善が利用者さんや事業者にとって共通の切実な問題となっていることの表れだと思います。民



医連加盟事業所からは、NPO法人ひなたぼっこさんから50筆、NPO法人福寿草さんから80筆、グループホームさくらさんから12筆を届けていただきました。健康クラブ泉の会の会員さんにも大きなご協力をいただき、署名集約数全体の約三分の一は泉の会の関係で集めていただきました。

諏訪共立病院では、11月11日「介護の日」に合わせて、外来の待合室で横断幕をかかげ署名をお願いしました。病院では、11月1日から毎日、各部署が交代で待合室において署名をお願いしてきました。また、11月3日イベント「しもすわ三角八丁」で「青空健康介護相談」を行ない、その中でも介護改善署名の取り組みを行ないました。2011年1月の通常国会に向け、署名や介護改善の要求をさらに集め、運動を大きく盛り上げていきましょう。

(諏訪地域民医連介護ウェブ推進委員会 社会保障改善運動推進ニュースNo.1 2010年11月30日より)

お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp